

ホーム名:グループホーム(和み)					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかりやすい表現のものに作り変えて、見やすいところに掲示している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者行事に招かれて社会資源についての講義をしたり、地域内の住民と事業所の組織(○地区医療福祉協議会)に参加し、住民の活動に参加している(コロナ禍でここ数年自粛している)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者も地域の方が多く、その入所者の知人家族などから、入所相談以外に在宅介護にかかる相談を受けることがある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度はコロナ禍でほとんど開催ができなかった 今年度は地域の民生委員もすべて入れ替わったが、2名共参加いただき、ホームの機能などを説明をし、気づいた点を述べていただいている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	ここ数年はコロナ禍のため、認定調査や会議が少なくなっているが、感染動向(感染者数・ワクチン接種の予定)や不足している衛生材料についての連絡・報告が多かった今年度に入って介護相談員派遣・運営推進会議参加が再開している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	協力医療機関の医師・看護師の指導を仰ぎ、どうしても必要なものであるかを検討している コロナ禍でもあつて換気の必要が多いので、窓だけではなく玄関ドアも開放することが多くなった		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	少なくとも年2回の研修を行っている		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>これまで地元社協の日常生活支援事業の利用や、家族以外の成年後見人がおられる方がおられ、家族以外のキーパーソンの方とのケアについて連絡調整があった。現在はすべての入居者は近くに住む家族がおられる。ただ本人のきょうだいなど高齢化している家族もおられ、こういった制度利用を家族に働きかけができるように学ぶ機会を持つ必要を感じている</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を契約前に丁寧に説明を行っている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者個々に「担当者」を決め、必要なものをお持ちいただくこと、訪問診療医師からの連絡などを行っている。その際ご要望やご意見を頂いた際には管理者にその内容を報告している</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議を行う前に議題や取り上げて欲しい内容・テーマを募集するために「提案箱」を置いている。そこに寄せられた内容を会議で取り上げている</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>コロナ禍において職員が安心して勤められるように、併設している診療所の受診・ワクチン接種・抗原キットでの検査をこの間行っていた</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍でもあり対外研修は行っていない(昨年度は、看護協会の「ゾーニング」の研修に職員派遣)</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ禍で事業所が集まったの会議は行われていない。が、新しい入居者を担当されていた居宅介護支援事業所や病院のMSWを訪問し、入所後の様子について報告を行っている</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>多くの場合入所相談は居宅のケアマネ、包括、MSWからもたらされることが多いが、実際に介護を行っている家族や本人に必ず面談を行うこととしている。その中で語られること、気づいたことをニーズ(解決すべき課題)として、入所後のケアに活かすように努める」</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に本人や家族の要望を聞き取るまた介護サービスや医療サービスを受けている場合は、それを提供あるいはコーディネートしているケアマネ・事業所に聴き取りを行い、留意すべき点を聞き取る</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームの性格を理解していただき、本人・家族が持っているニーズや要望に沿うものであるかを、入居前の面談あるいは体験入居後に話し合う。外部サービスを利用できないので、機能訓練(訪問通所リハビリ)や医療行為(持続点滴など)を望まれる際は別の事業所を紹介する</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>座ったり、立ったまま動かないなど安全にできる作業をお手伝いいただいている。テーブルを囲んで数人でおしゃべりをしながら取り組まれている</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>この間コロナ禍で面会制限・外出制限が続く、ご家族との関係は希薄になっている。面会禁止・制限(一部緩和)をこの数年繰り返しているが、面会ができる際は、「衣替え」などホームに来ていただけるように声をかけている</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会制限が続いているが、制限を緩和した際は、面会を促している。同じ宗教の信者、自分が家主で貸している店子など、ご家族がより親しい友人・近所の方を連れてこられている面会もあった。家族の面会以上にとても喜ばれていた</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者の中でも90代後半から70代後半と親子ほどの年齢差があるので、難聴・視力など身体的にも「できること」の差が大きい。入所者同士も一緒にレクリエーションに参加したり、作業と一緒に取り組むなど、ユニット内で支えあえるような声かけを行っている</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>骨折や肺炎など急性症状により入院となり退所しても、リハビリ後など再入所となった利用者もいた。「住み替え」で新たな施設に入るよりも、慣れたこのホームに戻ることを希望される方もおられる。入院や在宅生活に移行しても、再入所が可能であることを家族や本人に伝えている</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前ご本人またご家族から、それまでの生活の様子を聞き取っている。ご自分の気持ちを表現することが困難な入居者もおられるが、聞き取った情報から本人の望む</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入所前にどのような生活を送ってこられていたか、ご家族・ケアマネ、また本人と面談を行い聞き取っている</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入所後の個々のの過ごし方を観察し、本人の有する力の把握に努めている</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>個々の入所者には「担当者(担当職員)」を定め、その者が家族との窓口となり、本人の状態や要望を伝えているご家族から要望が寄せられた際には、管理者に直ちに報告を行い、介護内容の変更の必要について職員間で話し合っている</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>午前・午後・夜間と勤務者が本人の状態・バイタル・面会者・受診・入浴・排泄について記録している。その記録に基づいて申送りが行われている。特に排便とバイタルについては緩下剤や降圧剤、解熱剤などの「頓服」服用の基準があるので、その日その時の状態の記録により、あらかじめ定められている「指示」を実行している</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入所されてから本人の状態だけではなく、保証人あるいは緊急連絡先をされている家族の状態も、病気・ケガなどで変化されていることもある。本来ご家族の役割としてきた、買物・衣替え(衣服の整理)・役所への手続・他医受診の付添など、ホームで担うこともある</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入所前の在宅での生活から支援を受けていたケアマネ・民生委員・地域包括や社協(地域生活自立支援事業)などとの関係も維持されている方もおられた。しかしコロナ禍で面会制限もあり外部の方の訪問・面会はなくなっている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームと同一敷地に嘱託医である診療所があるため、内科など日常の健康管理はそこで行っているが、入所前から受診されている精神科、手術を受けた病院などへの受診を、家族の付添で行かれている方もおられる</p>		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>発熱・嘔吐・気分不良・数日にわたる便秘や転倒による打撲など、急な状態の利用者の変化に対して、介護職員では判断がしにくいことがしばしばある</p> <p>ホームに隣接している有床診療所の看護職員に昼夜を問わず、相談ができる体制がある</p> <p>利用者への対応だけでなく、感染予防や感染者が出た際の対応についても助言を受けている</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>毎年数人の入院がある</p> <p>長期の入院によって「寝たきり」になったり、見当識障がいが進む懸念があるので、できるだけ早く退院することが望ましいとされる</p> <p>同一敷地にある有床診療所には入院施設もあるので、軽症であればその有床診療所に入院してもらい、早期に退院ができるように医師・看護師と情報共有をしている</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>がんなどの疾患が見つかったり、嚥下ができなくなる方もおられる</p> <p>痛みや水分栄養摂取においてホームでの生活が困難な場合もあるが、医師・家族の間に入って調整をしている</p> <p>他の療養型病院、看護師が夜勤をしている住宅型有料老人ホーム、また同一敷地にある有床診療所などに移られている</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>同一敷地に有床診療所があり、病状については看護師・医師と、また災害時などは診療所職員の応援を受けることができる体制を取っている</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時は同一敷地にある有床診療所の駐車場また2階を避難場所としている</p> <p>避難時には診療所職員の応援を得て誘導を行う</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>排泄・食事などでの誘導することがあるが、命令や指示など厳しい口調とならないように、職員間で申し合わせている</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>気持ちや願いを伝えることが困難な利用者もおられる 伝えにくい利用者には「はい・いいえ」とか二者択一とか、本人の気持ちを引き出しやすい問いかけをするようにしている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>診察や入浴など時間が決まっているものについては、その順番を変更するなど本人の意向に沿うようにし、どうしても拒否が強いものについては無理強いをしないようにしている</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>更衣・整容は朝・毎食後・就寝前など職員が声をかけて、それぞれ自分の部屋に行ってもらい、自分のペースですてもらっている ただ「選ぶこと」「一連の動作」が難しい方には、声かけを行ない、できない方には介助をしている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理は職員が行うが、野菜の皮むき、食事前後のテーブル拭き、食器拭きなどは、可能な利用者と一緒に職員が行っている</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>個々に食事は異なるので、食べやすくまた自力で食べられるような形態・配膳量をひとりひとりに定めている また水分摂取は嫌がる方も多いので、少量ずつ回数を多くするように努めている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後には口腔ケアとして、各自居室の洗面で歯磨きをしてもらっている 自分でできない方には職員が介助を行っている また歯科医師・歯科衛生士の訪問診療を受入れているので、口腔ケアについて助言を受けることもある</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレには自由に行ってもらっているが、尿取りパッドの着け方や紙パンツ・下着の上げ下ろし、排泄後の後始末など介助を要する方には、職員が介助を行っている</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日のバイタルチェックに加え、排便のチェックを行っている 自らトイレに行かれない方にもトイレ誘導をしたり、便秘が続けば水分接種の促し、緩下剤の服用、それでも排便がなければ嘔吐医に相談をし、浣腸をおこなってもらっている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一般浴は週3回、車いすを使われている方の機械浴は週2回、いずれも職員が介助で付添っている 曜日・時間は固定している</p>		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>離床をしてもらうことを基本としていて、午前中は談話室で塗り絵などの創作活動に取り組んでもらっている 午後には利用者本人の状況に応じて、居室で臥床をしてもらうなど、自由に過ごしてもらっている</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>訪問診療を行ってくれる嘱託医、また家族が付添って受診した病院からの投薬はすべてホームで管理をしている 服用にあたっては用量用法に沿って、定められた時に職員が利用者へ服用してもらっている</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日中は居室にこもらず、他の利用者との会話や手伝い(洗濯物・食事の準備後片付け)をしていただいている 他の利用者や職員と一緒に過ごしている方が多い 個人的な趣味(読書・手芸など)を好まれる方は少ない</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ禍により家族との外出、またホーム行事としての外出は引続き中止としている ホーム周辺の散歩については朝夕希望される方と職員が付添って歩いてもらっている</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金の持込は認めていないが、欲しいものについてはご家族の面会時に届けていただいている 以前は買物に出かけていたこともあるが、コロナ禍で中断が続いている</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>面会制限中はご家族に電話をかけてもらうように呼びかけも行っていった 難聴や手紙を書くことが困難な方も多いので、「便り」で職員が近況報告をしている</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分の明るさ・室温は常に気を配り、トイレについては自動消灯としている 寒さ・暑さの感じ方はそれぞれ異なるが、衣類の調整(厚着・薄着)に気を配っている</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>狭いホームではあるが、自由に居室で過ごされたいり、他の方の居室で話し込まれているところをみかける 移動中の転倒に注意しながら、一人あるいは利用者同士で過ごすことを制限してはいない</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には転倒などの心配がなければ、自由に持ち込んでもらっている 自宅から、あるいはご家族が持ってきたものなど本人が不安を感じないようへの思いである 化粧品、くしやブラシ、コップ、衣類、入れ歯ケースなど自宅で使用している馴染みのものを持って来てもらっている</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室、食事時の自分の咳など、新しい環境に慣れることはむずかしい 貼り紙や目印をつけたり、迷っている様子を見つけたら職員が声をかけている このほか電気のスイッチ、テレビのリモコンなどの操作も迷われる方がおられ、スイッチではなく「ひも」、リモコンのボタンに印をちけるなど工夫をしている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	ko	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない